

シャンティが目指す 姿 2014 - 2018

(公社) シャンティ国際ボランティア会



5 ヶ年中期計画

(2013 年 12 月)

1. 中期計画の策定にあたって

シャンティ国際ボランティア会（シャンティ）は、カンボジアから難民となって祖国を追われた人びとを救済することを目的とし、1981年に設立されました。明日への希望を失いつつあった人びとに寄り添い、耳を傾け、何ができるのかを共に考える。一冊の絵本を手し、難民キャンプで生きる子どもたちと向きあったことが私たちの行動の出発点でした。

それから33年、シャンティは貧困と差別の中にあるスラム地区や農村・山岳部の人びと、大きな災害に見舞われ、心に傷を負った被災地の人びとに焦点を当て、活動を続けてきました。特に子どもや女性、マイノリティといった社会的弱者に対し、権利としての学びの機会、本を開くことを通じて自らの未来を拓く機会を提供することに努めてきました。

グローバル化の時代を迎えた今、世界は環境破壊や貧困格差の拡大といったその国だけでは解決できない地球規模の課題に直面しています。政府や国際機関のみならず、

NGO/NPO や市民社会が参加し、この困難を克服していくため、ミレニアム開発目標（MDGs）が掲げられました。達成期限の2015年が近づいた今、ポストMDGsに向けた議論が高まりを見せていますが、その目標の中では「普遍的な人権と人間の安全保障の実現」が問われようとしています。これはシャンティの使命である“人類の尊厳と多様性が尊ばれ、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和な社会の実現”そのものといえます。

2014年、シャンティは次の5ヶ年にかけて組織全体として達成すべき中期計画を策定しました。中期計画で決定された達成目標は次の2点です。

1. より困難で弱い立場におかれる人々が、自ら考え、問題を解決する力を培っていきけるよう、読書推進／図書館活動の取り組みを拡充していきます。
2. また、活動対象国／地域の政府や関係機関が、その教育政策の中に読書推進／図書館活動の位置づけを与えていこう、提言活動に取り組みます。

読書推進、図書館活動はこれまでもシャンティが取り組んできた教育開発事業の柱ともいえます。あらためて今原点に立ち返るとともに、未来を拓く本の力をより多くの人々へ伝えていきます。

本は、文字を覚え、知識を得、学ぶことの楽しさ、自らが考え解決していく力を教えてくれます。先人から受け継がれる文化や歴史や知り、世界への視野を広げてくれます。大切な信念や価値観に触れることから、生きていることの喜びや自尊心、他者に対する尊敬や思いやりの心を育んでくれます。

「本を知らない」をなくすために。

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会

2013年12月

2. 使命、目指す姿、基本姿勢

シャンティの使命（ミッション）

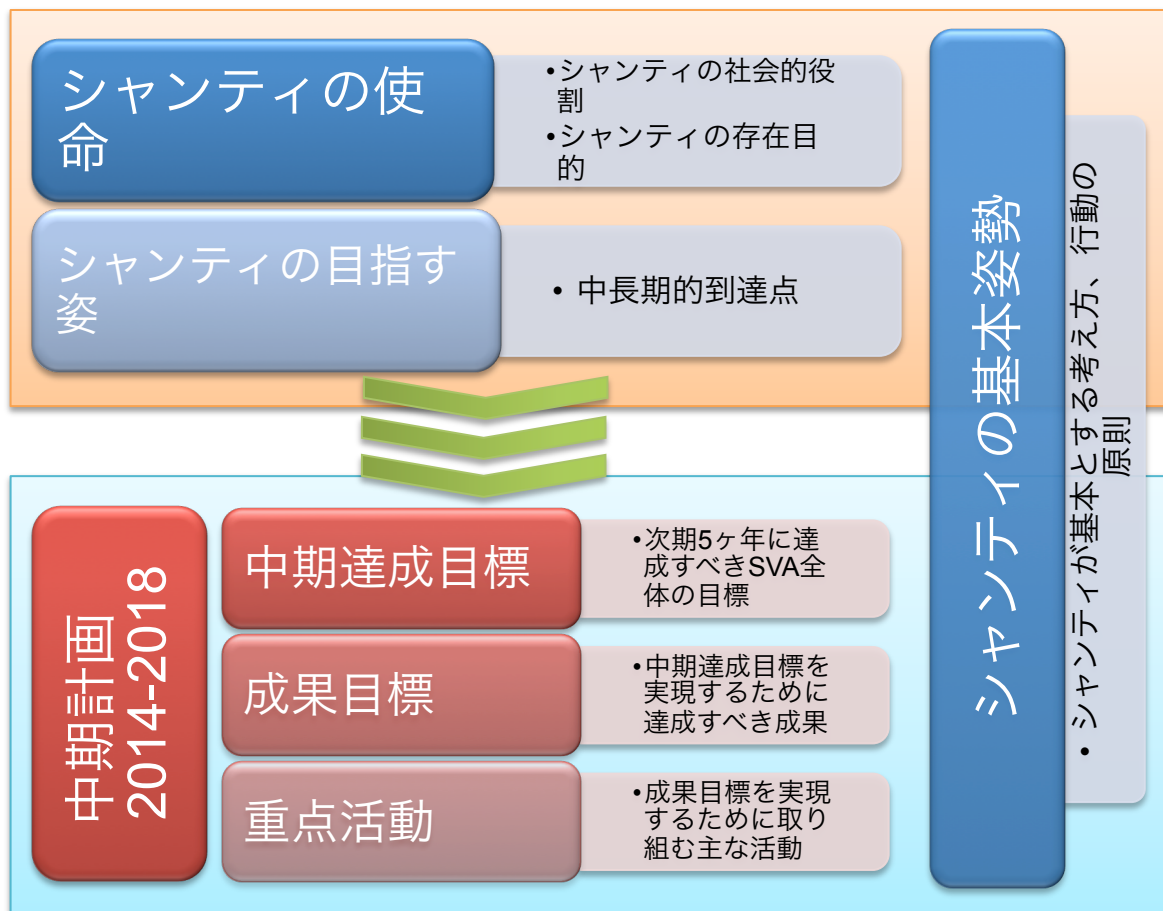
人間の尊厳と多様性を尊び、「共に生き、共に学ぶ」ことのできる平和（シャンティ）な社会を実現します。

シャンティが目指す姿（ヴィジョン）

人びとの考える力、創造する力を支え、共に社会や生活の問題を解決していく NGO となります。

シャンティの基本姿勢（ヴァリュー）

1. 苦難の中にいる人びとと痛み、悲しみ、喜びを分かちあい、共に歩みます。
2. 地域の伝統的な文化を重視し、民族、宗教、言語の違いを尊重します。
3. 人びとが自ら気づき、行動し、自立へと向かう開発を重視します。
4. 互いに支えあい、高めあうための触媒としての役割を果たします。



3. 中期計画概要

中期達成目標

シャンティは、2018 年末までに、

1. より困難で弱い立場におかれる人びとが、自ら考え、問題を解決する力を
培っていけるよう、読書推進／図書館活動の取り組みを拡充していきます。
(指標：①ターゲットグループに脆弱層が含まれているか、②利用者数)
2. また、活動対象国／地域の政府や関係機関が、その教育政策の中に読書推
進／図書活動の位置づけを与えていくよう、提言活動に取り組みます。
(指標：①政策の有無とその内容、②政策の実施状況)

成果目標と重点活動

シャンティは、上記中期達成目標の実現を目指すために、以下の 5 つの分野ごとに以下の成果目標を定め、さらにその成果に導くための重点活動に取り組んでいきます。

1 事業展開、事業運営

シャンティはこれまで教育・文化支援事業を活動の柱として位置づけてきました。特に図書館活動については、国内外の事務所において公教育から学校外教育まで幅広く展開され、受益者の幅も広がってきています。シャンティが長年培ってきた活動の専門性を高め、明確な達成目標を掲げた事業展開を目指すとともに、より多くの子どもや住民、地域へ支援を提供できるよう能力強化を進めていきます。具体的には、以下の成果の達成を目指します。

1.1) 方針に基づいた事業の展開

- ◆ すべての国の事業において「読書推進」を明確にした活動を盛り込んでいきます。
- ◆ 事業分野ごとに事業の方向性を示す指針を設けます。

1.2) 教育・文化支援事業の専門性を強化

- ◆ 全ての事務所において、シャンティの定める専門基礎知識を習得した専門職員を育成、能力強化を図ります。
- ◆ 各国においてシャンティが規定するガイドラインを基準にした図書館事業計画の立案及び事業実施を行います。
- ◆ 教員、司書、建築士、作家、編集者、デザイナー、システム・エンジニアなど、シャンティ専門アドバイザーやプロボノの仕組みを活用しながら、実施事業の中へ計画的に専門家投入を進めていきます。

1.3) 事業管理能力の強化、および活動成果の質の向上

- ◆ すべての事業において、活動の進捗状況、目標達成度と課題が明確に把握され、目標達成につながる改善策が提示できるよう、事業管理能力を強化します。
- ◆ 全海外事務所の事業責任者がライツベースアプローチの基礎知識を習得します。

1.4) 海外及び緊急救援（ER）事業の新たな展開方針の確立

- ◆ 新たな活動国での事業展開にかかわる方向性を決定します。
- ◆ 東日本大震災被災者支援事業の現地における直接活動が 2015 年末までに完遂し、一部活動は地元 NPO、住民組織、公共機関等へハンドオーバーしていきます。また、福島における支援活動については 2014 年内に明確な方向性を確立します。
- ◆ 国内外における ER 活動については、年間をとおして積極的に展開していきます。

2 ネットワーク、政策提言

シャンティが設立以来取り組んできた、子どもや成人の読書の機会、図書館へのアクセスの保証は、私たちシャンティだけでは、達成されません。対象国の政府機関、図書館、他の NGO、住民組織とのネットワークが不可欠です。また、読書の機会や図書館へのアクセスは、子どもや大人の権利であり、これを保証することは政府の義務であるという理念が各国の政策に反映されることが必要です。そこで、シャンティは「緊急、復興、開発等あらゆる状況下において、読書の機会と図書館へのアクセスは、子どもと成人の権利であるという理念が普及する」ことを政策提言、ネットワーク分野の目標として掲げ、以下の成果の達成を目指します。

2.1) 対象国政府、援助機関に向けた読書機会と図書館へのアクセス権利に関する理念の普及

- ◆ 各海外事務所、東京事務所企画調査室にアドボカシー担当を配置し、政策提言活動やキャンペーンを立案、実施します。
- ◆ 対象国および他の国における読書推進、図書活動を推進する NGO、図書館組織との連携を構築、拡大します。

3 広報、財政、ファンドレイジング

図書館活動や読書の推進についての意義について、またその権利を有さないシャンティの対象国の現状・課題について、広く市民に知っていただくために、広報活動に力を入れ、参加と支援の輪を広げていきます。具体的には、以下の成果の達成を目指します。

3.1) シャンティの組織的認知度の向上と支援者層の拡大

- ◆ ご寄付をお寄せいただくご支援者を毎年 2,000 人ずつ増やし、2015 年度までに 4,000 人、2018 年度末までに 10,000 人が新しいご支援者になるよう広報活動を展開していきます。またご支援者に占める 20～30 歳代の割合が現在（2012 年度末）の 14%から 25%になることを目指していきます。
- ◆ ご支援者との双方向コミュニケーションを促進し、身近な活動への参画機会を提案、提供するなどして、現支援者のリピート率を 30%から 40%となるよう目指します。

3.2) マーケティングに基づいた資金調達力の向上と財源の多様化

- ◆ マーケティングを牽引する専門職員を配置するほか、理事、専門アドバイザー、プロボノ等からのサポートを積極的に取り込み、ファンドレイジング推進体制を積極的に展開していきます。
- ◆ 毎年無指定募金を 500 万円ずつ増加させます。2018 年度末までには 2500 万円増の達成を目指します。
- ◆ ファンドレイジングに焦点化して、現行の募金メニュー、収益事業の整理を行うと同時に、新たなプログラムの企画・開発、展開を進めます。

3.3) 各国事務所による資金調達に向けた取り組み

- ◆ 次期運営現地化計画<2016-2018>策定時において、それぞれの事業実施国ごとに現実に即した資金調達目標と具体的な施策の設定を行い、活動地からのファンドレイジングチャレンジを開始させます。

4 組織運営、経営

支援を必要とするより多くの人びとに対して応えていくために、また、人びと自らによる変化と成長の過程を支え、確実な成果達成へと導いていくために、シャンティ自身の組織力、人材力を高めていきます。先を見据えた運営方針の形成と計画的な展開、組織能力強化／運営自立化に向けた取り組みの前進を中心に努めます。

4.1) 組織経営と事業の執行能力の強化

- ◆ 理事による担当部会制度を機能させ、事務局との連携の中で海外事業、東日本事業の在り方・方向性、ファンドレイジングとマーケティングにおける基本戦略を新たに打ち出していきます。
- ◆ 本中期計画の目標と成果を確実に達成していくために、進捗状況、課題の把握、その解決策を明らかにしていくためのモニタリング、中間評価を定期実施します。

4.2) 各国事務所の運営現地化・現地自立化を促進

- ◆ タイ・シーカーアジア財団の現地自立化を、当初計画通り、2014 年度末までに達成させます。
- ◆ 各海外事務所の運営現地化第一次計画（2013-2015）を前進させ、現地職員による事業実施と組織運営領域を拡大していきます。また、第一次計画が終わる 2015 年末を前に、次なる運営現地化方針について検討、計画策定に取り組んでいきます。
- ◆ 組織能力強化計画（2013-2015）に基づき、東京事務所を中心とした組織全体の事業運営、政策提言、財政、組織運営、人材育成、情報管理能力の強化を計画的に進めていきます。

4.3) 情報と経験の共有化による組織効率の向上

- ◆ 2015 年度末までに全ての重要書類の英語翻訳が行われ、2016 年以降は 2 言語翻訳（日本語、英語）が原則となるようにしていきます。
- ◆ 「情報共有タスク」が設置され、全ての事業事務所からの書類のアクセスを可能にします。

4.4) ジェンダー主流化の推進

- ◆ 組織運営における男女平等を推進するために、2014 年末までにジェンダー主流化方針を策定します。理事および管理職の男女バランスを改善します。
- ◆ プロジェクト運営における男女平等を推進するために、「プロジェクト形成時におけるジェンダー主流化チェックリスト」を確実に適用していきます。

5 職員（人材）育成

シャンティが掲げるミッションの実現のため、国内外で働く職員の育成は、欠かせません。現在、150 人（海外現地職員 85 人、日本人職員 65 人。2013 年 4 月 1 日現在）が働いています。シャンティで働くことに誇りと喜びを感じ、お互いを認めあい、職員自身が成長できるよう、以下の取り組みを進めます。

- ◆ 日本及び海外事務所においてシャンティが求める人材像について、「人材育成基本方針」を 2014 年中に策定します。
- ◆ 海外事務所においては、「人材育成基本方針」及びシャンティ「運営現地化」指針（2011 年 11 月策定）に基づき、3 年ごとに策定される人材育成計画を通じて人材育成を行っていきます。
- ◆ 「人材育成基本方針」に基づき、「人材育成計画」を作成し、2015 年より、日本人の人材育成を実施します。また、その成果について、モニタリングを行ってきます。